

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けを行ってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を示すために、誤った取り扱いを正しく生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は図解禁止)が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。
 - レンジフードファン本体と排気ダクトは、可燃物との間隔を10cm以上確保し、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因となります。詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください。
 - 周囲温度が40℃以上になる所には取り付けないこと
火災・故障の原因となります。
 - レンジフードファンの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 注意**
- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
 - 部品を取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります。

- 注意**
- 取り付けの際は必ず厚手の手袋をする
金属の切り口や角でけがをすることがあります。
 - 作業は2人以上で行うこと
製品は40kgの重さがあります。
 - ファンや部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
 - 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
 - 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)。
感電および故障の原因となります。
 - 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります。

取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者が行う必要があります。
 - ・大工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【設置のための配線、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードファンからのダクト接続等】
- 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別して行ってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理器具の幅はレンジフードファンの幅以内のものをご使用ください。
また調理器具はレンジフードファンの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は50Pa時400m³/h以上のものをご使用ください。
防虫網付きのものも目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりくく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

取り付け前の調査と準備

注意

- 本体の取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります。

1 取付個所の強度確認
製品を支える強さが必要です。 **製品単体質量 40.0 kg**

2 別売部品の準備
配線工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理器具の上面から製品の下端まで80cm以上です。

4 天井面への穴あけ(取付詳細図-1)
1) 右図を参照し、天井面の本体を取り付ける位置に開口400×560mmの開口を開けてください。
また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンセントを設置してください。
2) 開口部周辺を補強材で補強してください。
※補強材は野縁・野縁受け等に固定してください。

5 吊りボルトの取り付け(取付詳細図-2)
M12の吊りボルト(取付業者側手配)を4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは前後535mm、左右337mmです(製品寸法図参照)。
※吊りボルトは耐荷重200kg/本以上となるように取り付けてください。

6 φ150のステンレスダクト、またはスライダダクトを天井の開口部からレンジフードファンの上部に突き出すようにセットしてください。(取付詳細図-2)

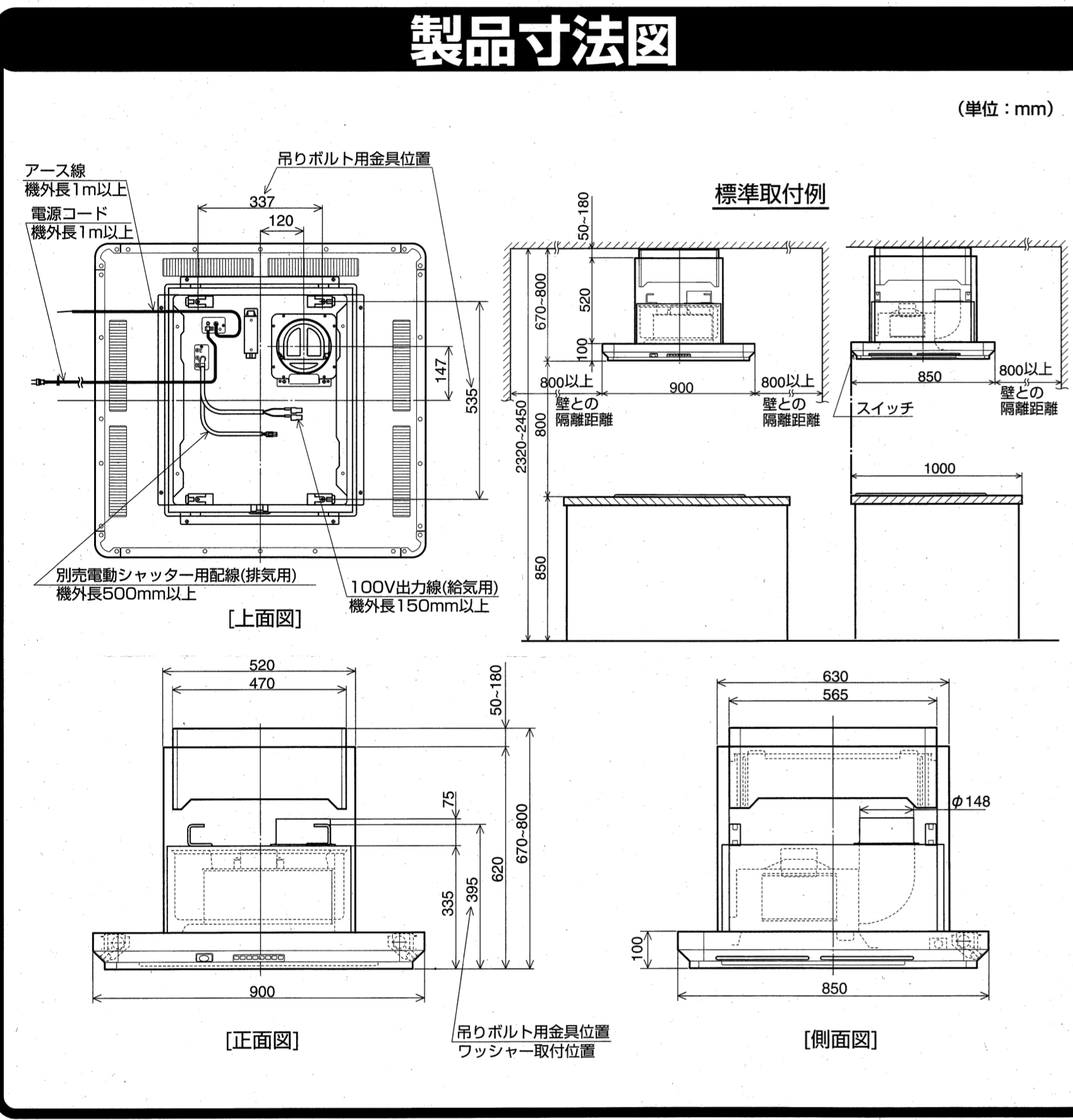
お願い
天井面からのダクトの突き出し長さ(A)、および吊りボルトの突き出し長さ(B)は、フード高さ(調整範囲:670~800mm)により異なります。製品寸法図を参照して、次式により算出してください。

ダクトの突き出し長さ(A) ±10 = 「フード高さ」 - 365
吊りボルトの突き出し長さ(B) ±10 = 「フード高さ」 - 370

フード高さ	ダクト突き出し長さ(A)	吊りボルト突き出し長さ(B)
800	435 ± 10	430 ± 10
770	405 ± 10	400 ± 10
720	355 ± 10	350 ± 10
670	305 ± 10	300 ± 10

※「フード高さ」寸法は、「使用するスライダダクト(別売部品)」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。

7 電源コンセント・ブレーカ
電源コンセント・ブレーカは専用のものを設置してください。(交流・単相100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。

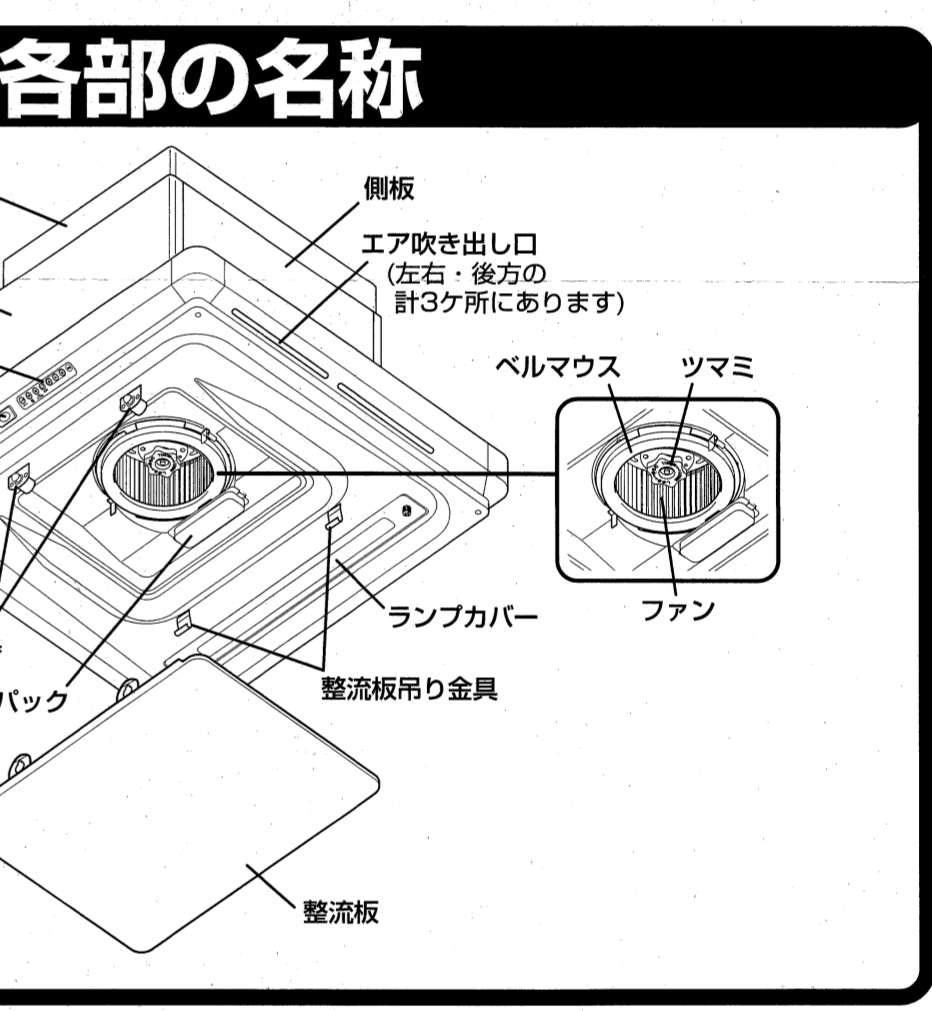


付属品

- トラスねじ (M4 × 10) (24本)
ダクトカバーの固定に使用します。
- トラスねじ (M5 × 10) (4本)
本体とフードの固定に使用します。
- 排気口 (1個)
本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。取付ねじは本体に取り付けています。
- ソフトテープ (1本)
排気口とダクトとの間隔をふさぐに使用します。
- フード引掛金具 (1個)
フードの取り付けに使用します。
- フード引掛機 (1個)
本体の取り付けに使用します。

別売部品

- スライダダクト (CACD-215)
ダクト取付部をカバーします。
- スライダダクト取付用座付ねじが付属されています。
座付ねじ φ5.1 × 25 (4本)



取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 製品取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をする
金属の切り口や角でけがをすることがあります。
- 作業は2人以上で行うこと
製品は40kgの重さがあります。

梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い
保護用のエアキャップと固定テープは取付作業が完了するまでキズ、破損防止のためはずさないでください。

2. 本体の準備

お願い
床面を傷つけないよう、作業は保護シート等を敷いた上で作業を行ってください。

1 付属の排気口にソフトテープを貼り付けます。(図2-1)

2 本体に取り付けているねじ2本をはずし、排気口を取り付けます。(図2-1)

お願い
排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因となります。

正しい接続例 誤った接続例

3. 本体の取り付け

注意

- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります。

1 レンジフードファンの固定位置を決めます。(図3-1)

1) 右図を参考に、次式によりマーカ位置(X)の値を算出してください。
X = 「フード高さ」 - 395

※「フード高さ」寸法は、「使用するスライダダクト(別売部品)」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。右図を参考に決定してください。

例: 製品取付高さが1700mm、天井高さが2370mmの場合(フード高さ=670mm):
X = 670 - 395 = 275
天井からのマーカ位置(X)は275mmとなります。

※マーカ位置が275mmより小さい場合は取り付けできません。その場合は製品特注にて対応可能な場合がありますので、販売店にご相談ください。

2) 吊りボルトの天井からXの値の位置にマジックペンなどでマーカをつけます。

2 スライダダクト(別売品)を取り付けます。(図3-2)

スライダダクトを座付ねじ4本で天井面に固定します。
座付ねじはスライダダクトに付属しています。

お願い
縦ぎ目のある面をレンジフードファン本体の左右方向にしてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。

3 M12のナット(取付業者側手配)を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。(図3-3)

お願い
フード取付完了後、調理器具上面から本体下面まで800mmにならない場合は調節してください。

4 本体を吊りボルトに固定します。(図3-4)

1) 本体を持ち上げて4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側にM12のナット(取付業者側手配)をしっかりと締め付けます。

お願い
ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2) アース線をアースターミナルに接続します。
※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。(法令で禁止されています)。

3) 電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込んでください。
※コンセントは定格表示125V・15Aのアースターミナル・接地極付コンセントを使用してください。

5 スライダダクトと本体を固定します。(図3-5)

付属品のトラスねじ(M4 × 10) 4本で前後各2ヶ所を固定します。

4. フードの取り付け

1 フード引掛機およびフード引掛金具をフードに取り付けます。(図4-1)

トラスねじ(M4 × 10) 各2本で奥側引掛機、前側引掛金具を取り付けます。

2 フードを本体に引っ掛けます。(図4-2)

1) 図のようにフードを斜めにしてフード引掛機を本体後部のフレームに引っ掛けます。

2) 前側を持ち上げてフード引掛金具を本体取付穴に取り付けます。

お願い
フード引掛金具のストッパーが本体の壁に確実に引っ掛かったことを確認してください。ロックが不完全なまま作業を続けると、フード部が落下するおそれがあります。
● スリ防止用のテープはフード取付後、手順3の次に貼ってください。

3 フードを固定します。(図4-3)

本体上部から前後各2本のトラスねじ(M5 × 10)で本体とフードを固定します。

※フードを手で支え、本体に押しあてながらねじを締めつけてください。ねじが完全に締まらないおそれがあります。

※ねじを締めつける際には、インパクトドライバー等は使用しないでください。ねじ部が損傷するおそれがあります。

4 コネクタを接続します。(図4-3)

本体の6ピンおよび9ピンコネクタをフード後部の端子に接続します。

お願い
● コネクタの接続は確実に行ってください。接続が不十分な場合、レンジフードファンが動作しない、発熱による故障などの原因となります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
● コネクタを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

5 コネクタを挿入する場合は

「カチ」という音が聞こえて挿入完了です。挿入が完了したら、正しい差し込み方、誤った差し込み方

6 ダクト接合部へ漏れ防止のテーピング(アルミテープ)を行ってください。(図4-4)

排気口とダクトの接合部をアルミテープで密封してください。

7 排気口設置面の漏れ確認(図4-5)

排気口とダクトを接続する際に、ダクトにレンジフードファンの排気口を無理に接続しようとすると、排気口および排気口設置面(フード天面等)が変形し、排気漏れが発生してしまふ場合があります。排気漏れ確認のため、ダクト接続後は試運転(強制運転)を行ってください。漏れ確認は排気口と設置面の周りをアルミテープ等で漏れ防止処置を行ってください。

ダクト 排気口
アルミテープ等 (フード設置面)

裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けを行ってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のご注意は表面をご覧ください。

取り付けかた

5. 電気配線

警告



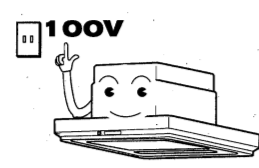
分解・修理・改造禁止

- 修理技術者以外は、絶対に分解したり修理・改造しないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。



使用禁止

- 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります。



アースを取り付ける

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電することがあります。



取付注意

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的
有資格者が工事を行うこと
誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります。

- コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125V をご使用ください。
- コンセントは、電源コードの長さを考慮して設置してください。
- 必ずアース (D 種接地工事) をしてください。
- 電源プラグをコンセントに差し込み、ブレーカを「入」にします。

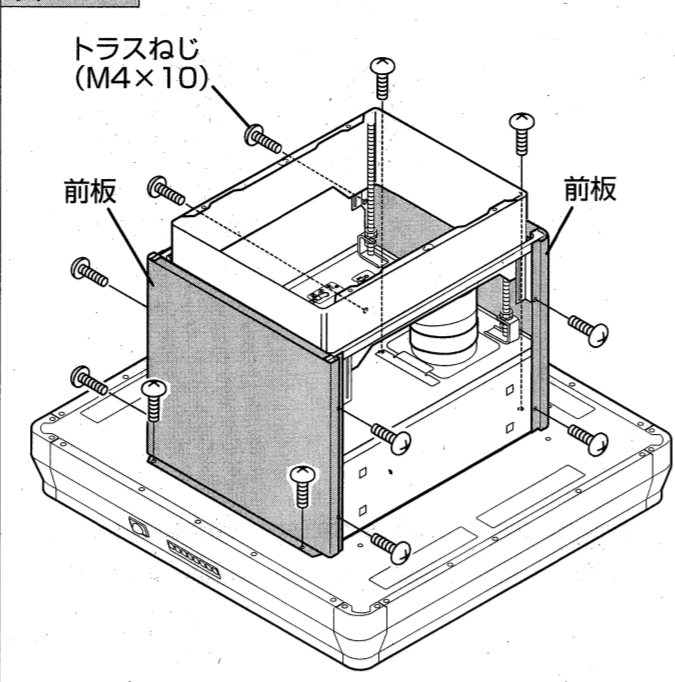
お願い

電源は専用のコンセントおよびブレーカを設けてください。

6. 前板・側板の取り付け

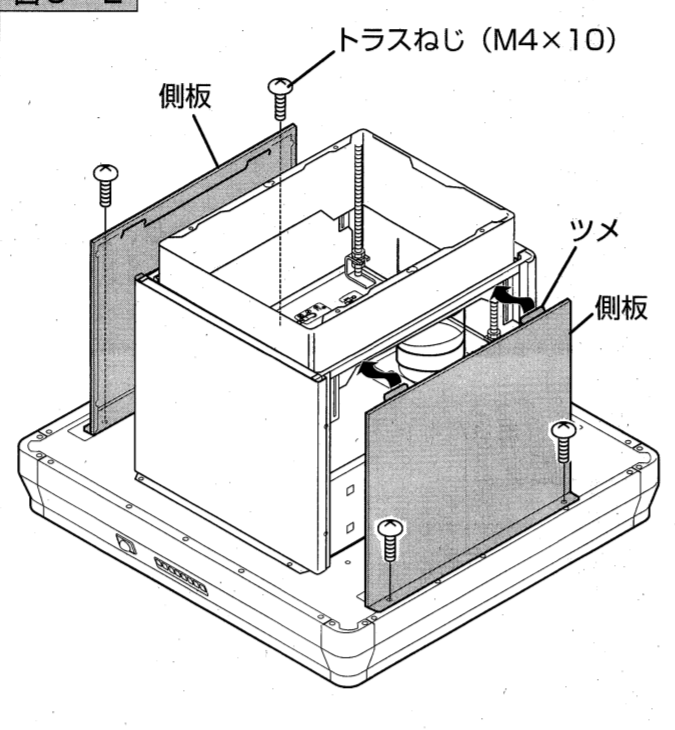
- 1 本体に前板を取り付けます。(図6-1)
前板2枚を本体の前面・後面にトラスねじ各6本で固定します。

図6-1



- 2 側板2枚を取り付けます。(図6-2)
側板上部のツメ2ヶ所を送風機に引っ掛け、トラスねじ (M4×10) 各2本でフードに固定します。

図6-2



7. 運転準備

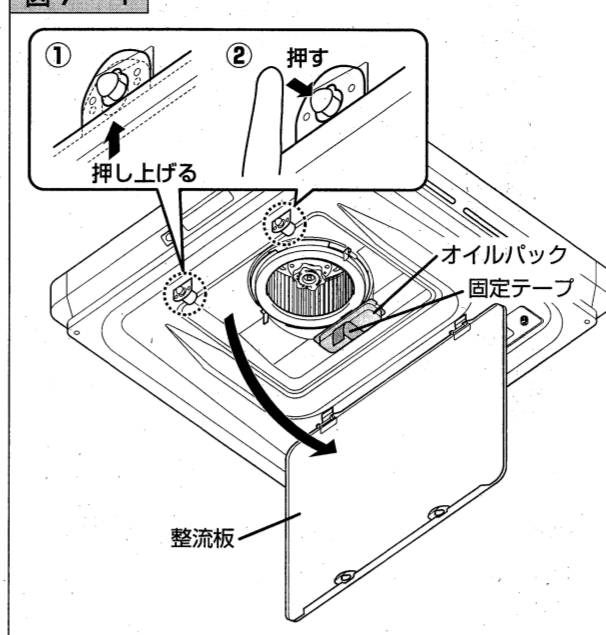
- 1 整流板を開き、オイルバックを固定しているテープを取り除きます。(図7-1)

お願い

整流板の固定は確実に行ってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因となりますので、取り付け後、再確認してください。

- 2 残っているエアキャップや固定テープなどをすべて取り除いてください。

図7-1



8. 試運転

注意



- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがのおそれがあります。



稼働注意

- 本体の各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。
スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しく行われていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
- 取り付けまたは施工に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

【製造元】 富士工業株式会社

本社・営業部 〒229-0006 相模原市淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754 (営業部)